

「構造設計のプロ入門（鉄骨造建築編）」第1版第2刷用 正誤表

※第1版第1刷をお持ちの方は、第1版第1刷の正誤表をご参照ください。

本書に誤り等がありましたので以下に訂正し、お詫び申し上げます。

今後も追加される可能性がありますので最新の正誤表については、日本建築センターホームページ (<http://www.bcj.or.jp/>) でご確認下さい。

2012/12/20

該当箇所		誤	正	修正日
頁	行			
16	上から 1行目	ゲルバー梁 (Gelber Beam)	ゲルバー梁 (Gerber Beam)	2011/ 04/20
37	図 -2.4.11 横軸	$\eta \cdot \delta_y$	$(\eta + 1) \delta_y$	2012/ 12/20
41	上から 7行目	$S_a / S_d = (T / 2\pi)^2$	$S_a / S_d = (2\pi / T)^2$	2012/ 02/13
93	上から 2行目	大きいほうの値を採用	大きいほうの値 (ただし、許容引張応力度 f_t を超えない) を採用	2012/ 04/02
149	図 -4.8.4 ① 枠内	①露出型柱脚の固定度を・・・(略)。ただし、ルート 1-1 の建築物でピンに近い形状の柱脚 (付表 1.2-4 のタイプ I) が使われる場合は、別途定める簡便な方法で検討してもよい。	①露出型柱脚の固定度を・・・(略)。ただし、ルート 1-1 の建築物でピンに近い形状の柱脚が使われる場合は、別途定める簡便な方法 (出典 4 参照) で検討してもよい。	2012/ 05/31
196	図 -5.3.14			2012/ 05/31
197	図 -5.3.15			2012/ 05/31

該当箇所		誤	正	修正日																																				
頁	行																																							
219	表 -5.4.3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>階数</th> <th>$Td \leq 0.16$ 秒</th> <th>$Td > 0.16$ 秒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5以上</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$</td> <td>0.95</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$</td> <td>0.90</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$</td> <td>0.85</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$</td> <td>0.80</td> </tr> </tbody> </table>	階数	$Td \leq 0.16$ 秒	$Td > 0.16$ 秒	5以上	1.00	1.00	4	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.95	3	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.90	2	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.85	1	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.80	<table border="1"> <thead> <tr> <th>階数</th> <th>$Td \leq 0.16$ 秒</th> <th>$Td > 0.16$ 秒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5以上</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$</td> <td>0.95</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>$1.00 - \frac{0.10}{0.16} Td$</td> <td>0.90</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>$1.00 - \frac{0.15}{0.16} Td$</td> <td>0.85</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>$1.00 - \frac{0.20}{0.16} Td$</td> <td>0.80</td> </tr> </tbody> </table>	階数	$Td \leq 0.16$ 秒	$Td > 0.16$ 秒	5以上	1.00	1.00	4	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.95	3	$1.00 - \frac{0.10}{0.16} Td$	0.90	2	$1.00 - \frac{0.15}{0.16} Td$	0.85	1	$1.00 - \frac{0.20}{0.16} Td$	0.80	2011/ 10/12
階数	$Td \leq 0.16$ 秒	$Td > 0.16$ 秒																																						
5以上	1.00	1.00																																						
4	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.95																																						
3	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.90																																						
2	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.85																																						
1	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.80																																						
階数	$Td \leq 0.16$ 秒	$Td > 0.16$ 秒																																						
5以上	1.00	1.00																																						
4	$1.00 - \frac{0.05}{0.16} Td$	0.95																																						
3	$1.00 - \frac{0.10}{0.16} Td$	0.90																																						
2	$1.00 - \frac{0.15}{0.16} Td$	0.85																																						
1	$1.00 - \frac{0.20}{0.16} Td$	0.80																																						
228	表 5.4.10	「減衰定数 h_i 」の「層 1」の欄 0.1440	「減衰定数 h_i 」の「層 1」の欄 0.1144	2012/ 8/23																																				
247	下から 10行目	ダンパー部分は、各階に作用する塑性ひずみエネルギー量 Es_{di} と地震に対して.....	ダンパー部分の必要エネルギー吸収量 Es_{di} は、各階に作用する塑性ひずみエネルギー量 Es_i と地震に対して.....	2011/ 04/20																																				
256	表 -5.7.2 点検 項目例	「免震層 建物外周部」の「必要性能」の欄 免震層の変位に支承がなく、各部に損傷が生じないこと	「免震層 建物外周部」の「必要性能」の欄 免震層の変位に支障がなく、各部に損傷が生じないこと	2011/ 04/20																																				
337	図 -A3.1.1			2012/ 05/31																																				
337	図 -A3.1.2			2012/ 05/31																																				
338	5行目 式	$\dot{y}(t) = -\frac{1}{\omega'} \int_0^t \ddot{y}_0(\tau) e^{-h\omega'(t-\tau)} \sin \omega'(t-\tau) d\tau$	$y(t) = -\frac{1}{\omega'} \int_0^t \ddot{y}_0(\tau) e^{-h\omega'(t-\tau)} \sin \omega'(t-\tau) d\tau$ (y の上のドットは不要です)	2012/ 05/31																																				